

けー じょう 開 鐘



城間栄順「タペストリー」松竹梅鶴亀文様

開鐘…とは

開鐘とは、琉球王国時代に三線の名器に与えられた尊称である。五開鐘・十開鐘があり、国王や王朝貴族が重宝したという。その由来は、夜明けのあけむつ（午前六時）につく寺の「百八の鐘」のことを開静鐘といったことから名付けられた。その音色ははるかかなたまでよく響きわたり、聴く者を魅了し、共鳴させたという。一八〇三年に即位した尚灝王の琉球歌に「世界や暗闇かおぞむ人もをらぬ、やがて開静鐘もならぬやすが」とある。外国船が沖縄に姿を見せはじめ、開国が目前にせまっているのに誰も気づく者がいないと嘆いていた。卓越した感性の持ち主である。本学も開鐘のごとく沖縄の未来を切り拓き、世界に向かって飛躍していく拠点になることを願い、情報発信源たる広報に「開鐘」というタイトルを付した。

～ 目 次 ～

学長あいさつ	2	卒業・修了生 主な就職先	8
新部局長あいさつ	2	国際交流	9
新採用あいさつ	3	留学生名簿	9
人事往来	3	留学修了生あいさつ	9
美術工芸学部／各専攻近況	4	同窓会ニュース	9
音楽学部／各専攻近況	5	学内ニュース	10
全学教育センター近況	5	沖縄県立芸術大学振興財団ニュース	10
大学院近況	6	退任あいさつ	10
附属研究所近況	7	オープンキャンパス案内	11
附属図書・芸術資料館近況	7	平成26年度公開講座案内	11
助成金獲得状況	7	展覧会情報	12
受賞者状況	8	演奏会案内	12

芸術文化の交流をとおして地域・社会貢献を！



沖縄県立芸術大学は日本最南端に位置する総合芸術大学です。昭和61年に美術工芸学部と附属研究所の単科大学として開学し、その後、音楽学部や大学院の設置などを進めて、芸術に関する総合的な大学としての骨格形成に努めるとともに、沖縄の工芸や芸能の伝統を受け継ぎ、積極的にその発展に寄与し、今年で29年目を迎えます。

この間、大学全体を取り巻く教育環境も大きく変化し、今日、大学が求められる役割として、教育・研究のほか、地域・社会貢献が強く求められているところです。学校教育法及び教育基本法において「教育研究を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする」「大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く心理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする」と明記されております。

このような中、本学においては社会との連携に積極的に取り組んでいます。多彩な展覧会、演奏会、講演会の開催はその活動の一部であ

りますが、教員はもちろん学生もそれに参加して、市民とともに新しい芸術表現を追求し、また、享受してきました。

6回目の開催となった移動大学では、久米島で音楽、美術工芸などあわせて13教室と空手道講話・演武、洋楽コンサート、琉球芸能公演を開催し地域との交流を図りました。

また、本学では芸術の力によって被災地の人々の心に寄り添う支援活動を継続的に行っており平成25年度においては教育復興プロジェクトとして、「彫刻の五七五一かたちで詠む奥の細道一展」、「琉球芸能公演～結・想い橋架けて～」、「空手スポーツ教室」、「漆喰シーサーを作ろう(教育復興支援ワークショップ)」を開催しました。

このような本学の特色は、芸術の社会的な役割や責任がさらに要求される新しい時代に合わせて、今後さらに大きな意義をもつことになると思います。

今後とも、学生、教職員がひとつになって、学生主体の学生のための大学を目指すとともに、地域に開かれ親しまれる大学に発展させたいと思います。

平成26年5月15日

学 長 佐久本 嗣男

新部局長あいさつ

美術工芸学部では、工芸専攻に新設した漆芸分野が2年目に入り、漆芸所属の学生達が実質的な活動を始めます。沖縄を代表する工芸の一つである漆芸を本学に導入することは、建学以来の夢であり、今後、沖縄の伝統文化に根差した研究制作と教育を進める上で新たな力になることでしょう。また大学院造形芸術研究科では、昨年度より専攻専修の再編を企画しており、多様性と独自性を重視した大学院教育のさらなる展開を目指しています。

今から遡ること5年前、沖縄県東京事務所に赴任していたおり、週末は美術館廻りを楽しんでいました。稲嶺元知事が言っていた「本物を見ることが一番の教養だ」を実践していたつもりです。縁があって、今回、沖縄県立芸術大学の事務局長を拝命しました。首里城に隣接する本学は最高の環境と教授陣が学生を迎えてくれると聞いています。

開学して30年近い歴史を刻んできた芸大は、個性の美と人類普遍の美を追求する県立の大学として相当の成果を納めてきたと思います。今後の課題としては法人化の問題、崎山キャンパスへ

最近、「沖縄県立芸術大学の存続の理由は？」などと聞かれることがあるのですが、その答えとして、28年前の建学に関する新聞記事をお渡ししています。そこには、建学に尽くされた方々の想いと県民の期待が明快に記されています。そうした歴史を胸に、本学の進むべき道を見つめながら努力したいと考えています。



造形芸術研究科長
北村 義典

の移転、地域貢献活動、国際化、広報活動の強化などが挙げられますが、学長の補佐として教授陣とよく連携し一つ一つ愚直に解決に向けて頑張っていくつもりです。国内だけでなくアジア・太平洋地域における特色のある大学として県民が誇れるよう、縁の下から支えていきたいと思っています。



事務局長
照喜名 一

新任あいさつ

本年度より工芸専攻陶芸の教授として着任しました。私は本学が開校したときに陶芸コースの助手を4年間勤め、それから独立して個人工房を設立し、沖縄の材料を使いながら陶器の制作・販売等を行ってきました。24年が経ち20代だった私が50を過ぎ、また本学で学生たちと一緒に制作していくのは非常に感慨深く、身の引き締まる思いです。陶芸を取り巻く環境も時代と共に変化し、陶土の枯渇化や技法の多様化など取り組むべき課題は数多く存在

します。それらと真摯に向き合いながら学生たちと前進していければと考えています。沖縄の伝統的な陶芸を理解し、また新たな学生独自の「やきもの」を創作していく手助けをしていくことが私の役目であると思っています。宜しく願い致します。



工芸専攻 教授
田里 博

今年度4月より音楽学部音楽学専攻に着任いたしました。当専攻では「舞踊・芸能」に関する科目を担当します。私の舞踊研究は、分野という動作学(運動学)視点から踊りを分析するという関わり方から出発して、はや30余年を経過し今日に至っています。分かりやすく言うと、例えば、踊る時の身体の使い方はどうなっているのかといった疑問に対して、バイオメカニズムの記録・分析手法(映像、二・三次元の動作分析、筋電図他等々)をかりて踊りの動作特性等を云々し舞踊を研究するというスタンスをもった分野です。沖縄の伝統芸能の保存・継承そして新たな創造のためにもこのよう

な地道ではあるが科学的な研究は大いに役立つと考えています。所属する音楽学専攻では、音楽と舞踊の関連性というキーワードで“動作”との接点をテーマに研究を広げたいと期待しているところです。本学の一員として、また芸大が国民に期待されている「琉球が誇る文化の実践・研究のメッカ」に恥じぬよう、学生とともに邁進していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



音楽学専攻 教授
花城 洋子

本年度4月から琉球芸能専攻の助教に着任いたしました。私自身本大学の卒業生で、昨年度までは非常勤講師として学生を指導させて頂いておりました。教員として母校で務めさせて頂けることを大変光栄に思います。

学生たちはさまざまな目標を持って大学で学んでいます。技芸を磨き、見聞を広め、将来はそれぞれの分野で活躍する人材になっていくであろう学生たちの感性、意志、意欲を大切に、とも

に学び合い、共感し合い、学生が実りある素晴らしいキャンパスライフを送れるよう精いっぱい務めさせていただきます。



琉球芸能専攻 助教
仲村 逸夫

4月に音楽学専攻の助教に着任いたしました。私の専門は西洋音楽史で、特に19世紀フランスの音楽批評や音楽史書などのテキストを対象に、近代の芸術音楽観の変遷を研究しています。

本学では、声楽・器楽・作曲の学生を対象にした西洋音楽史の講義や、演奏芸術専攻の大学院生の副論文指導を担当します。西洋のさまざまな時代の音楽作品と音楽観について考えることが、学生にとって多様な価値観を身につける機会となり、そして、沖

縄とアジアの音楽の魅力の(再)発見へとつながることを願っております。

私も積極的に沖縄の音楽や文化を学びながら、教育研究活動に励みたいと思っております。



音楽学専攻 助教
塚田 花恵

人事往来

新部局長

美術工芸学部長	北村 義典
造形芸術研究科長	北村 義典
芸術文化学研究科長	柳 悦州

評議員

学長	佐久本 嗣男
美術工芸学部長	北村 義典
兼造形芸術研究科長	
音楽学部長	糸数 ひとみ
音楽芸術研究科長	比嘉 康春
芸術文化学研究科長	柳 悦州
附属研究所長	波照間 永吉
附属図書・芸術資料館長	島袋 君子
学生部長	波多野 泉
事務局長	照喜名 一
美術工芸学部選出	田中 睦治
	平山 英樹
	上條 文穂
音楽学部選出	金城 厚
	佐久間 龍也
	小西 潤子

採用

教授	田里 博(工芸)
教授	花城 洋子(音楽学)
助教	塚田 花恵(音楽学)
助教	仲村 逸夫(琉球芸能)

定年退職

教授	丸田 勉(工芸)
教授	A・P・ジェンキズ(全学)
教授	定成 庸二(器楽)

普通退職

教授	宇佐美 俊剛(器楽)
助教	上山 典子(音楽学)
助教	新垣 俊道(琉球芸能)

昇任

准教授	土屋 誠一(芸術学)
准教授	倉橋 玲子(音楽学)

客員教授

島袋 常秀(工芸)
徳村 正吉(宮城能鳳、琉球芸能)
平野 昭(芸術文化学研究科)
我部 政男(附属研究所)
祝嶺 恭子(附属研究所)
吉本 忍(附属研究所)

名誉教授 (平成26年4月1日付)

板谷 徹
宮城 篤正

美術工芸学部／各専攻近況

絵画専攻

昨年12月に国際交流の一環としてチェンマイ大学のトンチャイ・ユカントボルンボ先生をお招きして公開講演会を開催しました。「プリンツ・インスタレーション」と題してご自身の学生時代から近年の数千枚の版紙片によるインスタレーション作品に展開するプロセスに関して、土着文化に着想を得たことなど大変興味深いお話をお聞きました。講演は絵画専攻が主体となって取り組む「版と言葉・版画集による国際交流」の展覧会のオープニング行事として企画されたもので、国内外6大学の総勢35名によるプロジェクトに氏も出品者のお一人として参加しました。前年度の夏にチェンマイ大学で開催された姉妹校締結記念展の特別講演会の際に筆者が研究発表した「版と言葉」に関連して協力依頼をし、賛同を得て実現したもので大学間交流の更なる展開が期待されています。



彫刻専攻

8月31日～9月28日の期間、4年生を中心に企画運営された「1517.806km沖縄県立芸術大学×女子美術大学」が糸満市にあるCANP TALGANY artistic farmで開催されました。この展覧会は東京と沖縄を交互に開催し、今回で5回目になります。学生は講評会・懇親会を通して互いの交流を深めることができました。

9月には沖縄アミークス インターナショナル幼稚園・小学校・中学校から校内環境整備の一環として作品設置依頼があり施設内に学部生の山王琴美さん、大学院生の早川信志さん、研究生の邱梁城さんのテラコッタ作品が寄贈されました。

10月には、今回で10年になる「彫刻カジマヤー計画」の作品設置を行

ない、目標としていた97点に到達しました。現在、このプロジェクトの10年間の歩みをまとめる作業を進めており、2014年4月には10年の活動を記念した北中城村主催「文化芸術振興シンポジウム」を開催予定です。

6月27日から9月7日の期間、彫刻専攻教員、助手、非常勤講師がOIST(沖縄科学技術大学院大学)にて開催した「A Crossing of Minds 思考的×身体的 科学×芸術」に出品しました。



芸術学専攻

国際交流委員会主催招聘事業第一回として、イタリア・フィレンツェ美術大学のエドアルド・マラージ先生講演会を芸術学が中心となって6月に開催しました。アートやデザインと環境や社会の関係について考える貴重な機会となりました。県立博物館・美術館と共同で同時開催した廃材を利用しジュゴンを作るワークショップには、多くの参加者がありました。また、姉妹校イタリア、ミラノ・ビコッカ大学より留学生(エステル・アヴォリオさん)を受け入れました。

学生活動としては、德里朝日さん(2年)が展覧会「SWAMP MAN」展

(2013年8月28日～9月1日、於てんぶす那覇3階ギャラリー)を企画・運営し、他大学の学生と積極的に交流しました。また、居村匠君(4年)が展覧会「ここで、なにかを、どうにかする、ために」展(2013年7月1日～7日、於沖縄県立芸術大学首里当蔵キャンパス)を企画・運営し、関連企画のトークイベントをインターネット中継することで内外にアピールしました。また、2013年3月には美術家の堀浩哉氏を招いたパフォーマンス・ワークショップと講演会が、芸大文化振興会の助成を受け土屋誠一講師によって企画されました。

デザイン専攻

デザイン専攻2年生は、「ふるさとの特産品開発」の授業の中で、読谷村を取り上げました。学生達は5グループに分かれ、それぞれ地元の食材を生かした給食、地元飲食店とタイアップした屋形船等の提案を発表しました。さらに2年生の有志、5名は、沖縄ファミリーマート主催の商品開発インターンシップ企画「ガクP」に参加し、菓子パン「よくばりさんの三色ちぎりパン」で、売り上げトップのベスト賞を受賞。本学が参加し始めて6年目の快挙でした。

また、本専攻では今年も海外の姉妹校から交換留学生を受け入れました。台湾の国立台北芸術大学から王萱(ワン・シュエン)さんと、ド

イツのブレーメン国立芸大からカトリン・マッサー・チックさんの2名でした。

最後に本専攻は就職を意識した専攻ですが、近年の社会状況を反映して進学が増えており、今年は3名の学生が本学の大学院に進学しました。



工芸専攻

平成25年度の後期から、漆芸分野では1期生となる学生たちが、漆精製、髹漆、下地などの技法を学び、工芸専攻漆芸分野の歴史がスタートしました。平成25年11月17日に、沖縄県立博物館・美術館で開催された「人間国宝と語る 琉球のうるし・創造と未来」では、漆分野の糸数政次教授と漆分野1期生の兼島風希さんが、パネリストとして、漆芸の未来について討論しました。

工芸専攻陶芸分野の丸田勉教授の退任記念展が、2014年1月8日(水)～1月16日(木)の期間で、本学附属図書・芸術資料館2階展示室で開催されました。「白瓷雪輪形大皿」などの磁器作品から、沖縄の自然鉱物素材を用いて制作された「クチャ黒陶大鉢」など、丸田教授が12年間、沖縄県立芸術大学で行ってきた研究や活動の集大成となる展覧会で、工芸を学ぶ学生への示唆と、多くの刺激を与えました。



共通造形センター近況

センターは、写真・版画・木工・金属工房の運営の他に、学部1年次の造形基礎を始め、自由科目等の授業への関わりや、卒業・修了作品展の運営や図録作成支援など、各専攻分野の境界を越え、横断して活動する必要からその役割を果たしています。平成25年度は、夏休みの高校生サマースクール、公開講座を実施して大変好評でした。卒業・修了作品展では1,500名を超える来場者がありました。

学外の活動では、「第37回沖縄の産業まつり」に「産官技術連携展」の一部として展示参加したり、また社会貢献にも力を入れています。



音楽学部／各専攻近況

声楽専攻

平成25年度に卒業する学生は、本学大学院、幼稚園の保母、教職、実演家に進みます。本学奏楽堂ホールでの演奏の機会は、試験と学内演奏会を合わせて4年間で16回ほどあります。質の良いホールとして知られる本学奏楽堂ホールでの演奏は学生の演奏技術を大きく成長させることを、教員も学生自身も体験上知っているといえます。その経験はコンクールなどにも効果を及ぼしている可能性があります。平成26年度は音楽学部ができて25周年にあたり、「天川原の綾虹(てんがはらのあやのじ)」をコンセプトとします。その記念の年の洋楽定期公演(本学主催)は声楽専攻の主担当で催されます。演目はモーツァルト作曲「フィガロの結婚」(コンサート形式)を取り上げ、配役はオーディションで決

定し、初めての大役に挑む学生たちは、緊張しながらも既にトレーニングに入っています。独唱と共に、他人の声と唱和する体験を重要視する本学声楽専攻ならではの演奏を「フィガロの結婚」でもお聴かせできるよう努める所存です。



器楽専攻

第24回洋楽定期公演 ～ピアノの祭典～ を10月19日に奏楽堂ホールで開催しました。ピアノコース学生全員(22名)が独奏、連弾の作品群に取り組み、ピアノコース委嘱作品として近藤春恵作曲2台ピアノのための《Ma b u i Ⅲ》の初演作品も披露しました。第19回オーケストラ定期演奏会「ボヘミアからロシアへ」は8月5日奏楽堂ホールにて開催しました。外山雄三氏の指揮のもとドヴォルザーク作曲交響曲第8番、ムソルグスキー(ラヴェル編曲)組曲《展覧会野

の絵》他を熱演し好評を得ました。また2日には《展覧会の絵》を題材に、外山雄三氏の解説と伊東陽氏のピアノにより原曲の再現と編曲版について公開講座(演奏解説論)が行われました。【特別講座】としては9月18日にパリ・エコールノルマル音楽院のパヴロス・ヤルーラキス氏を迎えコンサートと公開レッスンを行いました。氏の明快で解りやすい指導と解説は多くの来場者を魅了しました。

音楽学専攻

音楽学専攻では、昨年度、新たな専任教員として、小西潤子教授が着任しました。小西教授の専門は民族音楽学で、アジア太平洋地域を主なフィールドとしています。

音楽学コースでは、デジタル・オーディオ・プレイヤーを使用した音楽コミュニケーション、日本のロック受容における歌詞の用法などをテーマとする卒業論文が提出されました。また、初めての試みとして、卒論発表会

を芸術学専攻と合同で行い、活発な議論が交わされました。作曲コースでは、卒業提出作品の2作品が2月8日(土)奏楽堂ホールにおける試演会で初演されました。佐藤公昭君のエレクトーン、打楽器のための作品《扉～夢のつづき～》、釜村僚一君のフルート、クラリネット、ヴィオラ、ピアノ、打楽器のための作品《太陽と溶け合う海、永遠…》で、四年間の研鑽の集大成である提出作品を器楽専攻在学生の熱意ある演奏により初演されました。

琉球芸能専攻

琉球芸能専攻では昨年10月に名護市民会館にて定期公演を行いました。北部地区での初開催ということで、多くの皆様方にご来場頂きました。また、学内演奏会、沖縄県立博物館・美術館「新春の舞」出演や、平和祈念公園「こども琉球芸能奉納」にも出演しました。また、9月には宮城教育大学との共同企画で宮城県仙台市において“心の復興・琉球芸能公演～結～想い橋架けて～”を行いました。被災地での公演を通して人との心の暖かさを感じ芸能を通して復興を願いたいと誓いました。

また、県内両新聞社主催によるコンクールでも各部門において、多くの学生が受賞しています。「琉球芸能専攻」に改名されて10年、学生たちは益々芸の向上に励んでおります。



全学教育センター近況／教養教育・資格課程教育

本学の教養教育と資格課程教育は「全学教育センター」が運営しています。全学教育センターは、美術工芸学部・音楽学部・附属研究所の教員によって構成され、学部の垣根を越えた全学教育を推進します。

本学における教養教育は、将来、専門教育の成果を社会で十分に活かせるよう、社会性と豊かな人間性を兼ね備えた、文化的素養と国際

感覚のある人材の育成を目的としています。学生は、教養・専門を問わず授業内外での学修活動全体を通じて、コミュニケーション能力、論理的思考力、問題解決力などの汎用的基礎能力を養うことが求められますが、センターではこの力を教養教育共通の「リテラシー」と位置づけ、平成27年度からの新たな全学教育カリキュラムの構築を目指し準備を進めています。

教職課程

本学教職課程では、中学校教諭一種免許状(美術、音楽)及び高等学校教諭一種免許状(美術、音楽、工芸)、大学院では、中学校教諭専修免許状(美術、音楽)、高等学校教諭専修免許状(美術、音楽、工芸)が取得できます。「免許はとりあえず取っておこう」と安易な気持ちで教職課程を履修する学生もいますが、「教職に関する科目」だけでも34単位

も履修しなければならず、免許状取得にはそれなりの覚悟が必要です。また、教師になるためには、幅広い教養とコミュニケーション力が要求されますので、教職課程を履修すると決断した場合は、日頃から新聞や教職関連の本に目をとおり、授業へも積極的に参加し、生徒指導力も身につけて欲しいと思います。

博物館学課程

平成24年度は17名の受講生が学芸員資格を取得しました。また博物館実習では、県内外15館に20名の実習生を送り、学芸員業務の実習を経験しました。実習で現場へ出ると、博物館が扱うのは資料つまり「物」だけではなく、来館者やボランティア等々の「人」との繋がりがいかに大切かを学ぶことになります。頭の転換を余儀なくされ、また博物館

を取り巻く社会を勉強し、実習生たちは一回り成長して帰って来ました。平成25年度は音楽学部の学生も資格を取得できるようになって4年目。受講生が増え、幅広い専攻の学生が、資格取得に取り組んでいます。さらに博物館法施行規則の改正によりカリキュラムが変更され、より専門的に知識や技術を学べるようになっています。

大学院近況／修士課程

生活造形専攻

染織専修2年生の小泉美里さん、根神可奈子さん、1年の国吉春香さん、宮城愛美さん、陶磁専修2年の金城宙予さん、1年の小浜由子さんが、平成25年9月3日(火)～8日(日)の期間で、沖縄県立博物館・美術館の県民ギャラリーで開催された「沖縄学生美術展2013」へ出品しました。同展は、県内の大学で美術を学ぶ学生、県外で美術を学ぶ県出身の学生、卒業生らを対象に公募で選ばれます。その中で、小

泉美里さんの着物作品「流らふ」が、宮津賞を受賞しました。また、平成25年10月24日(木)～28日(月)東京都美術館、11月6日(水)～10日(日)京都市美術館 別館で開催された、全国公募展「第68回新匠工芸会展」に、染織専修2年の小泉美里さん、根神可奈子さん、1年の国吉春香さんが入選しました。その他、県内の公募展や企画、グループ展等で研究の成果を発表しております。

環境造形専攻

昨年12月から那覇新都心を中心に開催された、第42回沖縄県芸術文化祭の関連イベント「コンテンポラリーアートショー新都心景一(企画:OCAC)」に絵画専修2年の近藤麻美さん、佐藤泰彦さん、彫刻専修1年の岡部賢亮さん、絵画専攻3年の玉城綾乃さんの4名がCafé 1or8店内の展示に出品参加しました。普段見慣れない大型の画面による絵画や壁面への立体作品の展示など地域の方々や地元メディアなどからも高い評価をいただきました。また、同イベントではカラオケ店舗を会場として映像作品の上映を行い、絵画専修2年の嘉手苺志朗さんが実

験的な映像作品の発表に挑戦しました。今後も大学院生が積極的に街へ飛び出し、社会とのかかわりを持ちながら、アートを通じた地域活動の継続が期待されています。



比較芸術学専攻

昨年度は、本土や海外への研究活動が目覚ましい年となりました。前期には、JICAにてキルギスへ派遣されていた佐藤桃子さんが、キルギスの文化について報告会を行いました。後期にはイタリアのミラノ・ビコッカ大学からロザンナ・ファリカさんが留学生として本専攻に仲間入りし、イタリアと日本・沖縄の文化の違いについて、学生たちが様々な意見を交換することができました。また、10月には森結さんが、第46回美学会全国大会(於:東京藝術大学)の若手フォーラムにて研究発

表を行いました。

更に、同じくビコッカ大学へ留学中の加藤志帆さんが、沖縄県教育委員会・沖縄県留学会振興会選考の「国際性に富む人材育成留学事業」に、25年度の奨学生として選出され、11月には、日本についての研究成果を顕彰するため創設された「日本学賞」に、第一回の受賞作として波照間永吉教授の『南島祭祀歌謡の研究』が選出されるなど、学生・教員に喜ばしいニュースが続きました。

舞台芸術専攻

平成25年度の舞台芸術専攻の修士演奏では、古典音楽4人、組踊1人が、それぞれ研究成果を披露しました。琉球楽器による創作器楽曲、台詞と音楽の語り組踊の創作、沖永良部民謡と古典音楽の比較演奏、琉球舞踊の地謡、新解釈による組踊の演出などの発表作品には、卒業生や在学生の先輩、後輩が多く賛助出演し、修士演奏の厳かな雰囲気の中に伝統と創造に挑む活気が満ち溢れていました。修士演奏を終え、一段と人間的にも成長した晴れやかな表情が印象的でした。



演奏芸術専攻

平成25年度オーケストラと大学院1年生によるコンサートは、11月10日と12月14日に本学音楽堂で開催され、永井友恵さん(声楽専修)はJ.S.バッハ作曲カンタータ199番「私の心は地の海に漂う」全8曲、北園あかねさん(声楽専修)はモーツァルト作曲コンサートアリアK.383「わが感謝を受けたまえ、やさしき保護者よ」他、山入端優奈さん(管打楽専修)はR.シュトラウス作曲「ホルン協奏曲第2番変ホ長調」を、亀島ちさとさん(管打楽専修)はグレンダール作曲「トロンボーンとオーケストラのための協奏曲」を、木村義朗さん(管打楽専修)はトマジ作曲「トランペットとオーケストラのための協奏曲」を演奏しました。修士演奏では、2月1日に大石栗江さん(管弦打楽専修)がブリテン作曲「オ

ヴィディウスによる六つの変容」他、伊敷祐希さん(管弦打楽専修)が寺島陸也作曲「舞 IV クラリネット独奏のための」他、竹内志織さん(管弦打楽専修)がグリエール作曲「ロマンス」作品35-6他、伊敷美希さん(管弦打楽専修)がヴィドマン作曲「クラリネットのためのファンタジー」他、小田代明音さん(管弦打楽専修)が細川俊夫作曲「想起×振子」〈不特定の同種2旋律楽器のための《オリエン・オリエンテーション》〉他を演奏し、2月6日には本間千晶さん(声楽専修)がビゼー作曲オペラ「カルメン」のカルメンを、前田康博さん(声楽専修)がシューベルト作曲「水車小屋の娘」他を演奏し、各人の大学院での研修成果発表を行いました。

音楽学専攻

音楽学専修では、1名の修了生(立石浩希さん)を送り出しました。修士論文の題目は「日本万国博覧会における音環境」です。1970年に開催された日本万国博覧会を音楽学的な観点から再検討し、音響関連技術の発展の中に位置づけた点が評価されました。音楽学研究誌『ムーサ』

は今年度で第15号を迎え、1年次に在籍する川崎麻愛さんの「女性がつくる塩屋「総踊り」調査報告 ―その練習にみる日常と交流―」が掲載されました。また、初めての試みとして、修論発表会を芸術学専攻と合同で行い、活発な議論が交わされました。

博士課程

芸術文化学研究科では、従来からの比較芸術学と民族音楽学研究領域に加え、平成25年度より芸術表現研究領域(実技系博士)が開設されました。各研究領域の学生は、美術、音楽、芸能等各自のテーマに基づいた調査・研究をし、年に2回行われる研究発表会においてその成果を発表しました。11月には実技系博士(琉球舞踊)の学生による第一回公開研究演奏会が開かれました。

また、今年1月には本研究科で論文博士の学位を取得した三島わか

なさんが『近代沖縄の洋楽受容—伝統・創造・アイデンティティ—』を出版されました。

26年度は4名の新入生が加わり、学生も教職員も新たな気持ちで新年度を迎えています。今年度は、研究発表会に加え、実技系博士の学生(絵画、彫刻、琉球舞踊、声楽)による公開研究演奏会・展覧会が開催される予定です。博士課程の学生によるフレッシュな活躍にご期待ください。

附属研究所近況

附属研究所では、文化講座／公開講座を開講しており、H25年度は、文化講座4講座、公開講座1講座、延べ1700名の方が受講されました。

また、両学部協力のもと、沖縄県立芸術大学移動大学を行っています。第6回目となる昨年度は、12月21日、22日の両日「沖縄県立芸術大学移動大学in久米島」を久米島町立清水小学校、久米島具志川農村改善センターなどを会場として開催しました。

今回の移動大学では、音楽、美術工芸などあわせて13教室(32コマ)と空手道講話・演武、洋楽コンサート、琉球芸能公演を開催し、延べ445名の方が参加されました。琉球芸能公演では、久米島で結成され、内外で活動している“親子塾なんくる”の15名による「なんくるさんしん」が披露され、本学からの琉球芸能と久米島町の伝統芸能を比較することができ、たいへん興味深い公演と相互の交流が行えました。

また、今年度は附属研究所客員教授の我部政男氏による特別講座「近代日本と沖縄」について全3回の講演も行われました。



「移動大学in久米島」の三線教室のひとこま

附属図書・芸術資料館近況

〈図書館〉

平成25年度末で、図書が和書53,552冊、洋書14,427冊、合計67,979冊、雑誌が和雑誌1,518種、洋雑誌101種、合計1,619種、楽譜が7,539冊、視聴覚資料(DVD, CD等)が7,253点の資料を所蔵しています。平成25年度の利用実績としては、開館日数212日、利用者数22,949人、貸出数7,316冊(視聴覚資料348点を含む)となっています。

〈芸術資料館〉

平成25年度末で、貴重資料175件、卒業生買上作品125件、合計300件の芸術資料を収蔵しています。貴重資料の内訳は、絵画50件、彫刻18件、陶芸36件、染織47件、漆器4件、楽器1件、その他3件となっています。平成25年度の利用実績としては、展示会開催回数28回、展示室利用日数235日(資料閲覧、博物館補講含む)、展示会観覧者数9,707人となっています。

助成金獲得状況

〈科研費補助金〉

古謝麻耶子	モザンビークの国家形成と芸術文化政策
三島わかな	近代沖縄の洋楽受容

〈科研費助成金〉

波照間永吉	鎌倉芳太郎資料画像総合データベースに基づく発展的研究
高瀬 澄子	「管絃音義」の研究
土屋 誠一	沖縄戦後における美術に関する環境整備に向けた文献資料データベースの構築
近藤 春恵	琉球古典音楽の実技教育における音楽基礎能力の養成方法
金城 厚	民謡現地録音資料データベース化の方法の研究—沖縄民謡を中心に—
久万田 晋	南西諸島の民謡旋律の系統に関する比較分析研究
小西 潤子	パラオにおける日本語歌謡の収集と分析—民族音楽学的・言語学的観点から—
三島わかな	戦前の沖縄本島・八重山諸島・台湾のラジオ番組における洋楽受容と郷土意識の形成

〈公益信託 宇流麻学術研究助成基金〉

山内 昌也(琉)	大学間連携共同教育推進事業の実践的研究
----------	---------------------

〈沖縄県立芸術大学教育研究支援資金〉

高良 則子	英語多読の全学展開に関する基礎研究
島袋 君子	琉球舞踊の教材化及び実践研究
上條 文穂	大学間連携共同教育推進事業の実践的研究
片桐 仁美	地域に根ざしたオペラ公演

平成25年度 受賞者状況

絵画専攻

- 佐藤香葉(卒業生)VOCA展2014【大原美術館賞】
- 齋悠紀(卒業生)トーキョーワンダーサイト-Emerging 196【選出】
- 辻野絵美利(卒業生)トーキョーワンダーシード2014【入選】
- 古謝茜(卒業生)第40回記念 春季創画展【入選】
- 富銘弓佳(卒業生)第40回記念 春季創画展【入選】
- 平良優季(院2年)第40回創画展、佐藤太清美術展【入選】
- 上原ちはる(院1年)第12回奄美を描く美術展【入選】
- 高岡秀樹(4年)碧い石見の芸術祭 全国美術大学奨学日本画展【奨励賞】
- 高橋みか(4年)碧い石見の芸術祭 全国美術大学奨学日本画展【入選】
- 但馬真琴(4年)碧い石見の芸術祭 全国美術大学奨学日本画展【入選】
- 屋良和香奈(4年)碧い石見の芸術祭 全国美術大学奨学日本画【入選】
- 恒成しな(3年)碧い石見の芸術祭 全国美術大学奨学日本画【入選】
- 仁添まりな(3年)碧い石見の芸術祭 全国美術大学奨学日本画【入選】

彫刻専攻

- 津波夏希(研究生) 第66回 沖展【沖展賞】
- 平敷傑 (3年) 第66回 沖展【浦添市長賞】
- 玉那覇英人(卒業生) 第66回沖展【準会員賞】
- 吉田俊景 (卒業生) 第66回沖展 【入選】
- 田中幸太(4年) 国際瀧富士美術賞

声楽専攻

- 増田勇人(3年) 第67回全日本学生音楽コンクール北九州大会【第一位】(毎日新聞社主催)
- 金城理沙(2年)第26回新報音楽コンクール声楽部門一般の部【第一位】特賞受賞(琉球新報社主催)
- 濱田貴大(2年) 東京国際コンクール【入選】
- ダッチャー恵子(研究生) 徳島音楽コンクール【銀賞】
- 金城理沙(2年) 第20回おきでんシュガーホール新人演奏会 オーディション入選

琉球芸能

琉球新報琉球古典芸能コンクール

- 座間味大斗(1年) 三線【優秀】
- 嵩本理恵 (2年) 舞踊【新人】
- 上門夏生 (2年) 舞踊【新人】
- 城間亜衣梨(2年) 箏【新人】
- 澤舩安優 (2年) 箏【新人】
- 仲嶺良盛 (2年) 笛【新人】
- 木村有希 (3年) 箏【最高】
- 宮城初夏 (3年) 箏【優秀】
- 伊藝武士 (3年) 舞踊【最高】 三線【最高】 胡弓【最高】
- 喜納彩華 (3年) 舞踊【最高】
- 島尻紀希 (3年) 笛【新人】
- 玉城知世 (3年) 太鼓【最高】
- 和田信一(大学院1年) 笛【優秀】

沖縄タイムス伝統芸能選考会

- 棚原健太 (1年) 三線【新人】
- 比嘉太志 (1年) 舞踊【最高】
- 平良友香 (2年) 三線【新人】
- 儀間由莉奈 (2年) 三線【新人】
- 窪田めぐみ (2年) 三線【新人】
- 親川遥 (3年) 笛【新人】
- 亀井美音 (3年) 三線【最高】
- 青井裕子 (3年) 舞踊【新人】
- 伊藝武士 (3年) 太鼓【最高】
- 嘉数愛美 (3年) 舞踊【新人】
- 嘉数幸雅 (3年) 舞踊【優秀】
- 島尻紀希 (3年) 太鼓【新人】
- 下地史乃 (4年) 舞踊【最高】

工芸専攻

染織

- 国吉 春香 (大学院1年) 第68回 新匠工芸会公募展【入選】
- 川村 真希 (大学院1年) 第66回 沖展【入選】
- 小泉 美里 (大学院2年) 第36回 沖縄県工芸公募展【新人賞】
- 奥平 可南子(大学院2年) 第68回 新匠工芸会公募展【入選】
- 大城 あや (卒業生) 日本民芸館展【奨励賞】
- 島袋 知佳子(卒業生) 第66回 沖展【入選】
- 藤原 悠加 (卒業生) 時計文字盤コンテスト【入選】
- 花城 美弥子(教 員) 第68回 新匠工芸会公募展【奨励賞】

陶芸

- 久保田 千尋(3年) 第66回 沖展【教育出版賞】
- 山川 美織 (3年) 沖縄市工芸コンテスト「Craft in 沖縄市」【奨励賞】
- 村田 言恵 (3年) 第53回 日本クラフト展【入選】
- 本田 伸明 (助 手) 第36回 沖縄県工芸公募展【佳作賞】
- 山田 サトシ(教 員) 第2回 陶美展【入選】

漆芸

- 水上 修 (教 員) 第31回 日本伝統工芸漆芸展【MOA美術館賞】

デザイン専攻

- 稲福勇巳(4年) ツールド沖縄ポスター原画コンテスト【最優秀賞】
- 日塗装ポスターデザイン画コンテスト【優秀賞】
- 名護ヤンバルツーデーマーチロゴマーク【採用】
- IT津梁まつりポスター【最優秀賞】
- 松嶋玲奈(4年) 沖縄げんべい島ざうりデザインコンテスト2013【商品化】
- 第66回沖展 グラフィック部門【沖縄教育出版賞】
- COCO ! ストア クリスマスカタログ表紙デザイン【採用】
- 内間桃花(4年) COCO ! ストア クリスマスカタログ表紙デザイン【採用】
- 赤嶺舞(4年) 沖縄市こどもの国ゲートモニュメントデザイン【最優秀賞】
- 米須紫乃、田代志乃、友利悠太郎(3年) 名護大通り 歩道ベンチデザイン【採用】
- 小波津有依、山口安紗美、港川咲子、石川なみ(3年) エアポートトレーディング ショッピングバッグと包装紙【採用】
- 朝日はるな、湧川朝恵、松田萌、南風盛ゆい、福地明乃(2年) 学P2013 沖縄リーグ 【ベストガクP賞】
- 小波津有依(3年) 第10回「若者によるエコ・メッセージポスターデザイン」【入選】
- oasia沖縄かりゆしウェアテキスタイルデザインコンペ【銅賞】
- 友利悠太郎(3年) iPhoneケース【採用】
- 濱口南子(2年) 第17回「コミックイラストコンテスト」入選
- 福地明乃(2年) 沖縄市こどもの国ゲートモニュメントデザイン【優良賞】
- 沖縄げんべい島ざうりデザインコンテスト2013【商品化】
- 與那嶺莉風(2年) 沖縄げんべい島ざうりデザインコンテスト2013【商品化】
- 嘉数理世(2年) 第77回トレジャー新人漫画賞/週刊ジャンプ【最終候補一手前賞】
- 高山草風(2年) EVプロダクツ沖縄 産業祭り展示パネルデザイン【採用】
- 沖縄カトリック小学校 模型【採用】
- 友利紗貴(1年) 第17回「コミックイラストコンテスト」【佳作】
- 松田絵里(1年) 第2回星のイラストコンテスト【入選】
- 新垣雄丈(研究生) INTERNATIONAL STUDENTS CREATIVE Award2013【佳作】

西銘順治賞 美術工芸学部：但馬 真琴、田中 幸太、比嘉 楓、松嶋 玲奈、森 千穂美

音楽学部：田港 光、宇根 康一郎、堤 理加、真栄城 由依

山本正男賞 造形芸術研究科：小泉 美里、塩谷 美夏、平良 優季、早川 信志、照屋 盛之

音楽芸術研究科：前田 博美

卒業・修了生 主な就職先

【美術工芸学部】

(株)TLO、(株)Summer time Studio、エマエンタープライズ、(株)国建、コスアイランド、(株)Ruhia、安木屋、(株)ゆう工房、大嶺工房、雅織工房、(株)JCC、(有)リアプロジェクト、熊本県立甲佐高等学校、(株)ヨドバシカメラ、(有)ボリ、(株)PAワークス、(株)プロトデータセンター、(株)佐久本工機、(株)フジ、ナグモデザイン事務所、宝古堂美術、富士ファニチア、(株)スタブランニング、レコ琉球、御殿場市役所、一般社団法人プテラ、(公財)こども未来ゾーン運営財団、有田窯業大学校、アッシュ・ペー・フランス(株)、飛驒産業

【音楽学部】

ヤマハ音楽振興会、ミュージックプラザ、熊本銀行、浦添市役所、航空自衛隊防衛南基地、沖縄県立南風原高等学校、(公財)沖縄県文化振興会、伊豆急行(株)、(株)ボディワーク、(株)花水木コーポレーション、(有)インプレスト、レインボーホテル、国立劇場おきなわ、京都府南丹市立園部中学校、陸上自衛隊(音楽隊)、明光保育園

国際交流

下記の大学と芸術・学術主流に関する協定書を締結しています。(7カ国、地域10校)

- 福建師範大学(中国) ・中国音楽学院(中国) ○ミュンヘン国立造形芸術大学(ドイツ) ○ブレーメン国立芸術大学(ドイツ)
○C.モンテヴェルディ音楽学院(イタリア) ○University for the Creative Arts(イギリス) ○チェンマイ大学美術学部
○ミラノ・ビコッカ大学(イタリア) ○国立台北芸術大学(台湾)
○インドネシア芸術大学デンパサール校パフォーマンス・アート学部(インドネシア)

留学生名簿

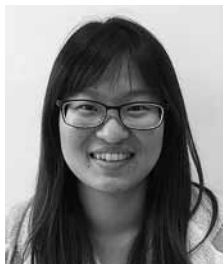
2014年前期留学生(受入)情報(2014年4月1日現在)

	氏 名	出身国名	受 入 専 攻	担当教員
1	呉 海寧(ゴ・カイネイ)	中国	芸術文化学研究科(後期博士課程)比較芸術学研究領域	波照間 永吉
2	陳 佑而(チン・ユア)	台湾	芸術文化学研究科(後期博士課程)芸術表現研究領域	波多野 泉
3	趙 英鍵(チョウ・エイケン)	中国	造形芸術研究科環境造形専攻彫刻専修	上條 文穂
4	韓 蘊澤(ハン・ユンゼ)	中国	美術工芸学部デザイン工芸学科工芸専攻 陶芸分野	山田 聡
5	蔡 智元(チェ・ジ ウォン)	韓国	美術工芸学部デザイン工芸学科工芸専攻	花城美弥子
6	朱 ハンセム(ジュ・ハンセム)	韓国	美術工芸学部デザイン工芸学科デザイン専攻	赤嶺 雅
7	比嘉門秀樹 ビートル(ヒガジョ・ヒデキ)	ブラジル	美術工芸学部デザイン工芸学科デザイン専攻	仲本 賢
8	トカシキ・クニガミ・ダニエラ	ペルー	美術工芸学部デザイン工芸学科工芸専攻	中嶋 鉄利

2014年前期留学生(派遣)情報(2014年4月1日現在)

	氏 名	派遣国名	専 攻 (本学)	担当教員
1	並里 亜衣	台湾	音楽学部音楽学科音楽学専攻	高瀬 澄子
2	野田 菜摘	タイ	美術工芸学部デザイン工芸学科デザイン専攻	仲本 賢

留学修了生あいさつ



沖縄県立芸術大学
大学院
音楽芸術研究科
鄭 文瑜

台湾から来ました鄭文瑜と言います。言語こそ違いますが気候と食べ物が似ている沖縄には親近感を持っています。留学期間は、地元の文化的体験ができました。沖縄で印象深いことは、観光客が極めて多いのに綺麗な環境を維持していることです。そして、地元の文化振興のために、各地で伝統芸能の祭りや演出が見られるのはよいと思っています。

沖縄県立芸術大学の交換留学生としての一年間、実技では歌三線、太鼓と琉球舞踊、理論では琉球音楽論を学びました。その上、琉球芸能だけではなく、雅楽と生田流箏曲の授業も受けました。優しい先生方がゆっくりと詳しく指導してくださったおかげで、よく勉強できました。私は三線音楽は不思議だと思います。三線は宮廷から平民にかけて、人々が演奏しています。曲のスタイルは違いますが、三線は沖縄の人に政治的にも娯楽的にも地元が認める国民楽器になりました。

また、先生を通して宮廷音楽の御座楽に参加し、四胡を弾いていました。御座楽では、台湾の北管と関連があるので、2013年9月に御座楽研究会と一緒に、私の母校の台北芸術大学で演奏会が行われました。両校の合奏はとても良い交流だと思っています。

沖縄県立芸術大学振興財団の助成により、2013年11月に短期留学生として東京芸術大学へ行きました。一週間は短いですが、幾つか学習することができました。邦楽の実技の見学によって、日本音楽を勉強することができました。演奏会も聞けたり、歌舞伎も見られました。短期留学は貴重なチャンスでした。ありがとうございました。

同窓会ニュース

同窓会は平成27(2015)年度にかけて大きく変わります！

これまでは主に会員の獲得と交流を目的として活動してまいりました。また、同窓生の活躍を広く県民および一般社会に知らしめるため、会報誌の発行やイベントも実施して参りました。

しかし一方で、日々の活動を支えてくださっている肝心の会員のみなさまに対しては、名誉以外にこれといったメリットを還元してこれなかったことも事実です。

そこで、この2年間をかけて、同窓会を一般社団法人化することになりました。法人化することで得られるメリットは数多く考えられます。最も特筆すべき点は、法人格を得ることで、確固たる社会的地位が確立され、経済活動を自由に行えるようになることに尽きます。

しかし、ここで疑問をお持ちの方も多くいらっしゃることでしょう。同窓会として経済活動を行う意味があるのか？経済活動を行うことが、なぜ会員へのメリット還元につながるのか？

想定されるこれらの質問にお答えいたします。

これまで大学には、「沖縄唯一の芸術大学」というブランドを頼りに、県民をはじめとしたみなさまから様々なご要望・ご協力の依頼がございました。しかし、行政の一機関である大学ではこれら全てに応えることができません。特に「広告デザインを依頼したい」「店舗改装を手伝って欲しい」「コンサート出演を依頼したい」「書籍執筆を依頼したい」といった商業的なリクエストに対しては、事務局を通じて各専攻の先

生方や、我々同窓会へ協力を請う以外に方法はございませんでした。

同窓会を法人化することにより、これらのリクエストにつぶさにお応えできるのではないかと考えております。つまり、多くの有能な同窓生とのネットワークを持つ同窓会が、エージェントとなり得るのではないかと考えております。責任あるエージェントとなることで、そこには学内外から恒常的に仕事が集まるでしょう。その仕事を同窓生へと還元することができるようになります。

また、同窓生の中には会社を経営されている方、自営でお仕事をされている方、企業・団体の責任ある立場におられる方が大勢いらっしゃいます。時に仕事がない、あるいは手に余ってしまってお断りしている、そんな状況をよく体験したり耳にしたりします。各専攻などに於いては、学外へ仕事を発注する際に、都度適切な業者を選定するのに骨が折れるという実情も多々あるようです。

法人化が実現すれば、そんな方々の受け皿、架け橋的な存在にもなり得るのではないかと考えております。在校生の就職支援や職業訓練の一端も担えるに違いありません。日頃より同窓会へのご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。より愛され、お役に立てる会になれるよう、役員一同頑張っております。

引き続きなにとぞよろしくお願い申し上げます。

真喜志 康一(会長：美術工芸学部デザイン専攻8期卒)

学内ニュース

「2013日本学賞」を附属研究所所長 波照間永吉教授が受賞！



2013年10月25日、日本文化の価値や美質を示す優れた「日本学」の研究に贈られる「2013日本学賞」(主催日本学基金)は、沖縄県立芸術大学波照間永吉教授の著書「南島祭司歌謡の研究」に決まりました。

日本学基金は2013年4月、国文学者の中西進さんを理事長に設立され、2013年が第1回であり、最初の受賞者となりました。

2013年 国立劇場おきなわ 芸術監督・企画制作課課長に芸大卒業生 嘉数道彦氏就任！



平成16年1月、「国立劇場おきなわ」が開場しました。ちょうど私は、修士演奏を目前に、緊張の頂点時でした。あれから早十年、昨年四月より劇場の一席に就き、慣れぬ業務に追われ一年になりますが、すべてまわりの方々に支えられた上である事は言うまでもありません。と同時に、芸大で技芸以上に学んだ人と人との絆、恩師との出逢い、先輩や仲間たちと切磋琢磨する関係は、今の私の原点となっています。そしてまた今日も母校は、続々と有能な後輩たちを輩出しています。琉球芸能の明るい将来を見据え、共に前進していく事こそ、今後の発展、母校への恩返しに繋がると信じ、日々精進していきたいと思っています。

沖縄県立芸術大学振興財団ニュース

平成25年度に行った助成事業の概要については次の通りです。

沖縄県立芸術大学の教育・研究及び学生の活動に対する助成として、陶芸作品退官記念展、高校生のサマースクール、五芸祭参加、学生オペラの公演、学生主体の作品展等合計11事業への助成を行いました。

奨学金については、沖縄県立芸術大学学生及び大学院生16名へ奨学金を給与しました。

地域社会の芸術活動に対する支援として、沖縄県高等学校文化連盟への助成を行いました。

また、伊平屋村発刊物制作業務の一環として、伊平屋中学校の生徒が撮影した写真を使用したカレンダー、ポスター及びポストカードを制作する受託事業を行いました。写真の撮影については、沖縄県立芸術大学デザイン科の教授及び学生が中学生へ撮影指導を行い、素晴らしい製品を完成させました。

本財団は、平成26年度においても、芸大の種々の活動を助成するため助成事業案件を募集しています。多くの募集があるよう期待しています。詳しくは職員及び担当教員等へご相談ください。

退任あいさつ



教授
丸田 勉

県立芸大の教員となって、いつの間にか12年がたっていました。思い返せばいろいろなことがありました(漆芸分野の設立、崎山キャンパスへの移転等々)、過ぎ去った出来事が、ひとつひとつ思い出される時が来たようです。県立芸大において素敵な出会いがあり成長させていただきました、有難うございました。県立芸大が一層充実・発展していくことを願っています。



教授
定成 庸司

県芸での24年間はじつにアツというまでした。赴任するまえには、まさか沖縄で仕事をするなど想像もしていなかったことであり、約四半世紀も過ごしてしまった今となっては、すっかり沖縄の人となっていました。これからはリゾート地としての沖縄に足をはこぶことといたします。沖縄県芸の今後の発展をお祈りいたします。



教授
A・P・
ジェンキンス

芸大に関する好意的な意見の中でも特に言及したいことは、芸大では一芸に秀でた学生を教えることができ教授陣は恵まれている、という県内の大学教授の一言です。確かにそうです。私たちの周りには才能に恵まれた学生が大勢います。それだけではなく、芸大ではカリキュラム以外にも展示会やコンサート、中には国際的な性質をおびた催し等が数多く開催されます。沖縄にきた当初、学生の夜間や週末の活動が少ないことに驚いていましたが、芸大に奉職すると同時に当初の印象は消え去り、芸大特有の環境や活動は私自身の人生をも豊かにしてくれました。



助教
新垣 俊道

県立芸大に赴任して早6年が過ぎました。在職中は学生への指導はもちろんのこと、移動大学、学外での定期公演開催など多くの貴重な経験をさせて頂きました。また、先生方や学生、事務職員との出会いは私にとりまして大きな財産です。6年間と短い期間ではありましたが先生方、事務職員の皆様には大変お世話になりました。感謝しております。これからも、県立芸大のさらなる発展を祈念しております。



助教
上山 典子

強烈な日差しに猛烈なスコール、そして巨大台風に遭遇しながらも、すべての体験が新鮮で、興味深い3年間を過ごすことができました。授業に耳を傾けてくれた学生、ご指導くださった先生方、そして事務局の方すべてに感謝します。

オープンキャンパス案内

芸術大学に進学を希望する人達を対象に、本学の実践活動と環境の一端を知っていただけるようオープンキャンパスを開催します。各学部、専攻・コースの紹介、演奏体験、施設見学、授業内容の説明、

在学生との懇談会、個別相談会等さまざまな企画を用意しております。詳細はホームページ<http://www.okigei.ac.jp/>、チラシをご覧ください。

沖縄県立芸大オープンキャンパス

美術工芸学部 平成26年8月1日(金)				音楽学部 平成26年8月1日(金)				
時間		正午～午後5時		時間		午前9時30分～午後5時30分		
受付		正午 当蔵キャンパス一般教育棟3階・大講義室		受付		午前9時より当蔵キャンパス奏楽堂		
時間		当日受付(事前手続きは不用です)		申込み		7月1日(火)～7月25日(金)(開催当日も可)		
主な日程	全体説明(12時30分～)			主な日程	声楽・器楽・音楽学専攻		琉球芸能専攻	
	絵画専攻・芸術学専攻		彫刻専攻・デザイン専攻・工芸専攻		9:30	開校式とオリエンテーション		
	当蔵キャンパスツアー		崎山キャンパスツアー		10:00	楽典概説	楽典概説	
	専攻個別説明会		専攻別説明会		11:00	ソルフェージュ体験実習	施設見学・琉球芸能鑑賞会	
	個別相談会		個別相談会		午後	各専攻・コースによる演奏体験等	実技指導および講評等	
	個別相談会に自主作品を持参できます。専攻説明会はカリキュラム説明、実習室見学、作品紹介、在学生との懇談が計画されています。他専攻の説明会にも参加できます。キャンパス間のシャトルバスが運行されます。					午後6時30分より器楽専攻による室内演奏会		

平成26年度 公開講座案内(受講料無料 <http://www.okigei.ac.jp>をご覧ください。)

附属研究所移動大学(受講料無料、<http://www.ken.okigei.ac.jp>)

移動大学 in 伊良部	12/23,24	伊良部島で開催
-------------	----------	---------

附属研究所文化講座(受講料無料、<http://www.ken.okigei.ac.jp>)

講座名	期 間	回 数	定 員
「海と琉球・沖縄の芸術文化」	9/17～11/19	10	100名
沖縄学「沖縄の美意識」	4/9～7/16	15	100名
「子供・学生のためのバリ音楽体験講座」	9月初旬	2	20名
「バリ・ガムラン音楽・舞踊の実践」	9月中旬から10月初旬	6	15～20名
「芸術学専攻教養講座」	10月	3	30～50名

美術工芸学部

高校生のサマースクール2014[前期]

講座名	内 容	期 間	定 員
油画	静物デッサン(木炭、鉛筆)	8/2,3	15名
彫刻	頭像塑造、人体素描	8/2～4	5名
デザイン	手描きアニメーション	8/2～4	30名
織(工芸)	不思議な織物	8/3～4	5名
漆芸(工芸)	金箔とアワビ貝を使った漆ストラップを作ろう	8月2日	15名

高校生のサマースクール2014[後期]

講座名	内 容	期 間	定 員
油画	静物油彩(アクリル絵具可)	8/5～7	15名
日本画	鉛筆素描と静物着彩	8/5～7	15名
彫刻	石膏デッサン	8/5～6	10名
デザイン	木製ペーパーナイフ	8/5～6	10名
染(工芸)	染色実習	8/6～7	10名
陶芸(工芸)	タタラで作る器	8月5日	10名

小・中・高等学校教員の夏期公開講座2014 8/2～8/7

講座名	内 容	期 間	定 員
写真	モノクロ写真の基礎(撮影・現像・焼き付け)	8/2～7	10名

音楽学部

講座名	内 容	期 間
高校生のためのサマースクール(声楽)	体験レッスン	8/2～3
冬期音楽基礎講座	ソルフェージュ・実技等	12月14日

平成26年度 附属図書・芸術資料館 展覧会情報

日 程		展 覧 会 名	展 示 室		
			第1展示室	第2展示室	第3展示室
4月	2日(水)～7日(月)	個展「紙とファッション」(デザイン助手 我如古真子)	○		
		グループ展「染織成果展」(工芸専攻 院生)	○		
		ふるさと特産品展開発展(デザイン専攻 授業)		○	
	17日(木)～27日(日)	「写真集をめぐる一つの提案 写真集×映像」(卒業生)	○	○	○
5月	14日(水)～18日(日)	「ドローイングコミュニケーション2014」	○	○	○
		「(笑)展2」(デザイン専攻・その他有志)	○	○	
		グループ展「染織成果展」(工芸専攻 院生)	○	○	
6月	4日(水)～8日(日)	「2人展」(デザイン専攻 院2年)	○		
		小原晶子個展「Story」(デザイン専攻 院生)	○		
		「本木友梨個展」(デザイン専攻4年)		○	
		彫刻グループ展(彫刻専攻2年)			○
	13日(金)～18日(水)	グループ展「点在するおと」(美術工芸学部 有志)	○		
		2人展「おまつり」(デザイン専攻)			○
7月	17日(木)～22日(火)	日本画三年生展(絵画専攻 4年)	○		
		個展「星の竹林」(デザイン：高山草風)	○		
		グループ展「あふれる五感」(デザイン専攻3年)		○	
	30日～8月3日(日)	「彫刻専攻学部生・院生展」	○	○	○
9月	3日(水)～8日(月)	2人展「人間ペロリ」(絵画専攻 2年)	○		
		「女子美・沖縄芸交流展(仮)」	○	○	○
10月	25日(土)～11月14日(月)	「自主企画展(仮)」(附属図書・芸術資料館)	○	○	○
1月	9日(金)～18日(日)	「2014年度 退任教員記念展(仮)」	○	○	○
	28日(水)～2月1日(日)	「彫刻専攻 学部1, 2, 3年・院1年展」	○	○	○
2月	4日(水)～8日(日)	「工芸専攻 3年生展(仮)」	○	○	○
	13日(金)～17日(火)	「第26回 卒業・修了制作展(仮)」	○	○	○
3月	4日(水)～8日(日)	「絵画専攻 油絵2・3年生展(仮)」	○	○	○
	25日(水)～30日(日)	「染織回遊 六人の表現」(工芸専攻：染織コース)	○		

平成26年度 演奏会案内

日 程		演 奏 会	日 程		演 奏 会
4月	18日(金)	学内演奏会 (管打楽コース)	11月	16日(日)	学内演奏会(院生によるコンチェルト)
	2日(金)	学内演奏会 (独唱)		21日(金)	奏楽堂演奏会(リヒルト・シュトラウス生誕150年記念演奏会)
5月	9日(金)	学内演奏会(管打楽コース)		25日(火)	学内演奏会(室内楽)
	28日(水)	学内演奏会(ピアノ独奏)		27日(木)	学内演奏会(オペラアンサンブル)
6月	5日(木)	学内演奏会(管打楽コース)	12月	3日(水)	学内演奏会(ピアノ重奏)
	9日(水)	学内演奏会(弦楽コース)		4日(木)	【院】学内演奏会(独唱)
	11日(金)	学内演奏会(琉球芸能専攻)		19日(金)	学内演奏会(合唱)
7月	12日(土)	【院】学内演奏会 (管弦打楽専修)	1月	14日(水)	【院】学内演奏会(オペラアンサンブル)
	18日(金)	【院】学内演奏会 (声楽専修 独唱)		16日(金)	学内演奏会(琉球芸能専攻)
	31日(木)	【院】学内演奏会 (室内楽)		23日(金)	修士演奏(舞台芸術専攻)
	1日(金)	学内演奏会(室内楽)		24日(土)	修士演奏(舞台芸術専攻)
8月	5日(火)	オーケストラ定期演奏会		27日(火)	学内演奏会(重奏、日本歌曲)
	2日(木)	学内演奏会(オペラアンサンブル)		31日(土)	修士演奏(ピアノ専修)
10月	13日(木)	学内演奏会(ピアノ独奏)	2月	2日(月)	修士演奏(管弦打楽専修)
	18日(土)	琉球芸能定期公演(国立劇場おきなわ)		5日(木)	修士演奏(声楽専修)
	19日(日)	洋楽定期公演(声楽専攻)		7日(土)	作曲作品試演会
	20日(月)	学内演奏会(管打楽コース 合奏)		21日(土)	卒業論文・修士論文発表会(音楽学コース・音楽学専修)
	22日(月)	学内演奏会(弦楽コース)	3月	21日(土)	室内楽定期演奏会
	29日(水)	学内演奏会(独唱)		6日(金)	卒業演奏会(琉球芸能専攻)
11月	7日(金)	学内演奏会(管打楽コース)		7日(土)	卒業演奏会(声楽・器楽専攻)
	11日(火)	学内演奏会(室内楽)		13日(金)	奏楽堂演奏会(琉球芸能専攻)
	14日(金)	【院】学内演奏会(琉球芸能専攻)			